

農林水産大臣賞

『こん立て表とにらめっこ』

鹿児島県鹿児島郡十島村立宝島小学校 五年 男子 松元 大樹

「明日は、大好物の焼きそばだ。」

給食のこん立て表を見てよろこんでいるぼくのとおりで、母がプリントとにらめっこしながら、不安そうな顔をしている。

「どうしたの。」

と声をかけると、母は、

「明日が初めての給食のお仕事なの。」

と言った。

四月から、ぼくのいる宝島小中学校の給食調理員として働くことになった母。毎日、ぼくたち家族のごはんを作ってくれているので、給食を作ることはかんたんだと思っていた。しかし、給食調理員として働くことは、ぼくが思っている以上に大変なことだった。

まず、清潔第一で、細菌やウイルスが入らないように、月に二回の検体検査をしていること。そして、もし作ったことのない料理だったら、調べているそうさ。その日のこん立てのうち、どの料理を担当するかは、当日にならないと分からないそうなので、前日はきんちようする、と母から聞いた。

母が、初めて給食を作る日がやってきた。ぼくは先生に、

「今日は、お母さんが初めて給食を作る日なので、いつもより多くふやしてください。」と言うと、先生は、特に大好きな焼きそばを大もりしてくれた。

家でも、焼きそばは食べたことがある。でも、いつもよりもその日の給食はおいしく感じた。

家に帰って、母に

「今日の給食はどれもおいしかったけれど、特に焼きそばがおいしかったよ。」

というと、母はうれしそうにっこり笑って

「そう。良かった。焼きそば担当はお母さんだったんだよ。」

と言った。前日の、あのきんちようした母の顔とは全然ちがいで、とても安心したようなうれしそうな顔になっていた。ぼくも、うれしくなって、その日の夕食もたくさん食べた。

母が給食調理員として働く日は、毎週金曜日だ。やっぱり前日には、こん立て表とにらめっこしている。でも、母の顔は以前より少し自信があるように感じた。ぼくは、

「今日もきんちようするの。」

と母に聞くと、母は、

「きんちようはやっぱりするけれど、大樹においしいと言ってもらえるからがんばる。」と言った。

それから月日がたった。今日は、母が給食調理員として働く最後の日だ。児童生徒がお礼のメッセージを書いた。このメッセージカードを渡すのは、給食委員長であるぼくの役目だ。母に渡すのは少し照れくさかったけれど、これまでの感謝の気持ちを伝えることができた。最後のこん立ては、スパゲティーだった。焼きそばとスパゲティーはぼくと母にとって忘れられない給食になった。